保　健　室

保育研究シート

２０２４年２月９日（金）
養護教諭　　渡邉　満美

1. 子どもたちの姿

３学期、寒い日に暖かい部屋で過ごしたいと保健室に来る子どもが多くいる。保育室に近い４歳児が多く過ごし、大人に手伝ってもらって製作をしたい子ども、友達と一緒に過ごせる場所として過ごす子どもたちがいる。３歳児は「〇〇ちゃんが泣いてる」「けがしたから部屋に来て」と子どもたちが養護教諭を呼びに来るようになっている。子どもたちの姿から生活の中に友だちを感じていることや、保健室も位置付いたことを感じる。５歳児は、自分の必要な時に保健室で過ごすようになっている。先週、保健室で製作していた子どもに「お部屋で作れるよ」と声をかけると、「静か過ぎるから保健室で作ってる」と返され、「つくるという空間」と「静けさ」について考えさせられた。

2. 子どもへの願い（かかわりの視点から）

異年齢の子どもたちが一緒に過ごす保健室は、どの学年の子どもにとっても過ごしやすい空間にしていきたい。

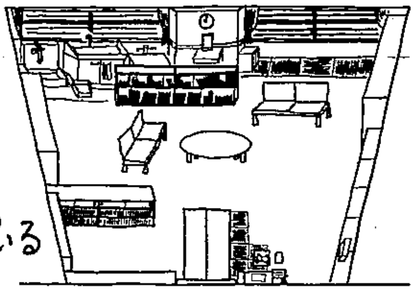
＊自分とのかかわり
・けがや具合の悪い時は、いつもと違う自分のからだの変化を感じ、様々な形で表現するようになってほしい。
・自分らしく過ごすことを気持ちよく感じ、過ごしてほしい。

＊人とのかかわり
・いつもは出会わない人、異学年との少し距離のある関係の中だからこそ、相手にも思いがあることを感じられることもある。そのような関係のなかでも、自分らしく関わってほしい。

＊もの・こととのかかわり
・保健室はクラスとは違う場所だからこそ、自分だけでなく、みんなが気持ちよくいられるような、過ごし方をしてほしい。異学年がいること、様々な気持ちで過ごしているひとがいること等、教師が相手を感じられるような声をかけて、過ごし方を考えるきっかけにしたい。

＜保健室＞

暖かい部屋
少し静かな部屋
常に大人がいる部屋を
好んで過ごすひとたちがいる



本に関係して
本をじっくり読みたい
遊びに関係する本を探す
やることがなく本を読みに来る等
本に親しむ場所であり
活用する場となっている

担任と連携をとりながら
子ども同士の関わりを促すなど
遊びがつながっていくように関わる。

ものづくりと関わって
年長児のつくるものに刺激をもらう年中児がいる
それぞれにいま必要な援助を考えながら関わっていく

手当てに関わって
けがの手当を見たり、養護教諭と一緒にしたりすることが自分の気持ちをたてなおすことの一端を担い、自信になるひともいる。

保健室は、けがや具合の悪い時に来るのはもちろんのこと、絵本も置いてあり、図書室のような機能を兼ねている。保健室では、子どもたちがクラスの枠を越えて出会う中で過ごしている。養護教諭は、けがなどへの応急処置の対応をしながら、保健室で過ごす子どもたちと関わっている。子どもたちが保健室で過ごす理由は「痛いから、もう少し休もう」「絵本を見たい」「今は静かな場所にいたい」「誰かに気持ちを受けとめてほしい」など様々である。